

あまりにも下手すぎる私

大学を卒業した後、Thuyさんは旅行会社に就職しました。主な業務内容は翻訳と総務の仕事でした。時々、ガイドさんのアシスタントも任せてもらい、経験を重ねたそうです。

日本から送られたツアーの要領をベトナム語に翻訳したり、車の予約やアドミンスタッフへの連絡をしたりしました。現場に行ったらガイドさんの手伝いも任せてもらいました。そんな時、日本語能力がまだ足りないと感じました。質問されたら、日本語でどう説明すればいいかわかりませんでした。

「あるときMy Son遺跡へお客さんを案内していたら、ガイドさんがお客さんからたくさん質問されました。日本語がそこまで上手ではないガイドさんに助けを求められましたが、私も日本語で答えられず、『日常会話なら問題ないが、特別な分野の言葉を日本語でどう言えばいいかわからない』と返しました。そういう体験を重ね、日本語がなんて下手なんだと自分にとがかりしたことが、日本に留学するきっかけになりました。



日本での生活



その後Thuyさんは友達のすすめもあり、大阪にある日本語学校へ入学しました。

関西空港に着いたとき、あまりの広さにちょっと驚きました。出口がどこにあるかわかりませんでした。それで一步も離れずに周りの人の後を着いていきました。そして公衆電話を探して学校に連絡し、バスの乗り方を案内してもらいました。バスのチケットもどうやって買うかわからないので、空港の従業員に教えてもらいました。

Thuyさんは学校の寮に住んでいました。必要なものはだいたい揃っていたので、特に不自由はなかったそうです。

寮は大阪の梅田駅に近かったです。徒歩なら5分でした。学校まで、歩く場合は10分、バイクで行く場合は5分ほどでした。

寮では友達と2人で住んでいました。寮は結構古かったです。木製のドアと畳がある部屋でした。部屋に入ったら、左は台所で、右はバスルームです。奥に行けば居間が、その奥には寝室がありました。寝室には押し入れがあります。部屋に洗濯機、ベッド、机、冷房、冷蔵庫、電子レンジなど、日用品がだいたい揃っていました。

日本に行って1か月間ぐらい経ち、自転車がないと不便だと気付きました。スーパーなどに買い物に行ったとき、物を持ちながら歩くのは大変だったためです。」「近所をぶらぶらと散歩し、中古自転車の店が見つかったので買うことにしました。中古といっても、5千円もかかりました。中古自転車を購入すると所有者登録などの手続きも必要でした。盗犯防止策として所有者の名前はバイクに貼られることになります。また決まったところに駐車しなければ、罰金の通知が届き、最悪の場合は自転車を持っていかれることもあります。」



バイト先の主任にいろいろお世話になったThuyさん。主任の家に遊びに行ったり、帰国する前に、ごはんをごちそうしてもらったりしたそうです。

「バイト先はうどん屋でした。チェーン店で、駅の地下にありました。私が働き始めた時、指導してもらったのは主任のおじさんで、とてもやさしい方でした。麺のゆで方から唐辛子の補充、調理、トッピングのメニューまで教えてもらいました。」

「日本人、ベトナム人を問わず調理も皿洗いも掃除もすべて担当することになります。最初のころは、私が集中して、トッピングのメニューを覚え、調理になれるように、主任は皿洗いをやってくれました。店の近くに競馬場があるため、週末になると異常なほど込んでいました。たった一分で食べ終わり、店を出て行った客もいました。」

あなたへのヒント

日本の方言を聞き取るのは難しいそうですが、どう思いますか。

● ●
バイト先の店長はもう60代で、関西弁で話したので聞き取りづらかったですよ。わからないときは聞き返しました。

店長もきちんと説明してくれました。大阪弁を教えてあげるから話してみない?とも言っていました。

買い物の場合、店の人も外国人とわかったら、方言を使わずにゆっくり話してくれました。まあ、わからなかったら聞き返せばいいです。

私は旅行によく行きました。北の方へはまだ足を運んでいませんが、奈良、京都、神戸なら何度も遊びに行きました。その時、道がわからなかったら、駅員に聞きました。最初彼らの早口で話す日本語がわかりませんでした。何回も聞けばなんとなくわかるようになりました。

よく旅行に行ったおかげで、会話と聴解能力が自分でもわかるほど上達しました。そしていつか日本語を話すことと聞くことはそれほど苦勞せずにできるようになりました。電車であるいは外で、集中しなくても周りの人が話してる内容がわかりました。

日本に行けば日本語も上手になるというのは本当ですか。

その人次第じゃないでしょうか。私より1年間半前に日本に行った知り合いがいます。あるとき郵便ボックスに再配達依頼を残された知り合いは私の部屋まで来て、私に電話をさせました。自分で電話かけても聞き取れないためです。また、何かあったら、通訳してくれるように私を頼ってきました。

自ら会話できる機会を作らないとだめです。例えば買いものに行ったら、商品の置き場、使い方などについて聞いて積極的に店員と会話をすればいいです。あるいは、バイト先で、手が空いている時、他のスタッフと話すのもいいです。できるだけいろいろなところに行くといいです。迷ったときは、警察員や駅員に聞けばいいです。親切に教えてくれるので、私は聞くのを怖がりませんでした。

今のようにスマホが普及されていなかった2010年ごろ、観光地や買い物に関する情報をどうやって検索しましたか。

日本に留学したのは、インターネットに手軽に繋ぐことがまだできなかった時代でした。スマホは高かったので、通話できるだけの携帯電話を買いました。インターネットを使いたいなら、学校に行かなければなりませんでした。外に出たらインターネットが使えないので、その観光地の紹介パンフレットや周りの人に頼るしかありませんでした。行く前に道のりなどを調べておいたこともありました。

困ったとき、私はよく「ここに行きたいのですが切符をどうやって買いますか」、「ここに行きたいのですが一番近い出口はどこですか」などとよく聞きました。駅の名前を覚え、電車の各線路の地図、時刻表を調べておきました。

Thuyさんがインタビューの中で話していた紹介パンフレットの他にもコミュニティ誌などもフリーペーパーもあります。

【コミュニティ誌は、ある地域を中心にして、そこの住民に向けた情報を発信する小冊子で、「タウン情報誌」「フリーペーパー」などとも呼ばれます。駅、公共施設のカウンター、本屋、コンビニなどに無料で置かれています。内容は、その地域の店の情報、イベントの告知、地域のサークル活動の案内などのほか、その地域で活動するグループや個人、施設を紹介したり、おすすめの場所を紹介したりなど、さまざまです。コミュニティ誌を読んで、地域の情報を集めれば、日本の生活がより豊かなものになるかもしれません。】

(『いそどろ生活の日本語』初級2第2課)
<https://hn.jpf.go.jp/irodori>

自分の住んでいるところを冒険したい場合、あるいはどんないいところがあるか、何かいい店があるか知りたい場合、ぜひコミュニティ誌で調べてみてください。インターネットで公開されていない情報が記載されているかもしれません。